

市民がつくる  
市民が学ぶ  
市民が拓く  
生涯学習情報誌

# Stage

月刊ステージ・アップ

---

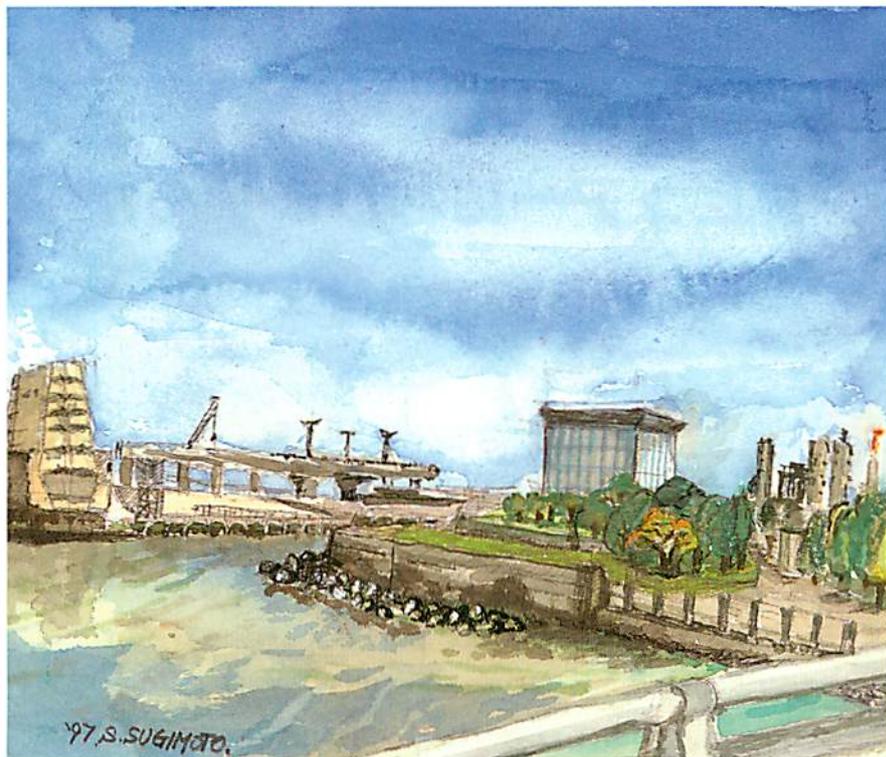
# up

'97

5

月号【1日発行】

熟年ら、自己実現へ  
かわさき市民アカデミー入学式



いまを話す

多摩高合唱部の指導者  
岩本 達明さん  
地域に音楽の楽しさを

◆かわさき市民アカデミー第6回生入学式—— 9

“多様な豊かさ” 見い出そう

市民の目が輝く地域社会を

■ほんねインタビュー いまを話す—— 14

県立多摩高合唱部の指導者、岩本 達明 さん

地域に音楽の楽しさを

「生徒と横並びの教師でいたい」

■はりきってます グループ紹介—— 8

批評しあい感性・技術磨く

高津フォトサークル

ダンス楽しみ健康で美しく

ソーシャルサークル(宮前区)

●学習・文化情報—— 10

◇早瀬一洋テノールリサイタル—— 11

◇「宅建」 答案練習講座の受講生募集—— 12

◇初めてふれるワープロ講座の受講者募集—— 13

●読者の声/ミニニュース—— 14

□編集後記—— 15

◆アカデミー修了式 「心の空洞なくなった」

裏表紙

◇表紙絵：浮島町公園から東京湾を望む—— 杉本繁さん

(小誌は再生紙を使用しています)

## インタビューになりませんか？

みなさまのなかに「ほんねインタビュー いまを話す」のインタビューをして下さる方、いらっしやいませんか？。「『いまを話す』が評判がいいのは、なぜだと思う」「やはり、ゲストの素晴らしさでしょう」「半分正解かな。地域と生活に根差したインタビューのこと、忘れていませんか」。そうだったのですね。

年に数回、インタビューになっていただけませんか。インタビューの前に、ゲストに聴く内容などを一緒に考えます。インタビュー時間は約1時間です。あなたのポテンシャルが開花するはずです。インタビューに不可欠なのは、ポリシーであり知的好奇心です。

希望される方は○郵便番号○住所○氏名○電話番号○年齢○性別○得意のジャンル○略歴○簡単なメッセージ(抱負や希望された動機など)を記し、顔写真(スナップ写真も可)を添え 〒215 麻生区万福寺1の2の2 新百合21ビル(財)川崎市生涯学習振興事業団編集室まで封書でお願いします。

なお、インタビューには薄謝を差し上げます。

## かわさき市民アカデミー第6回生入学式

## "多様な豊かさ"見い出そう



篠原学長代行(右)の講話を聴く新会員たち

新入会生は、表現系（歴史・自分史、芸術、ことばと映像）四十八人▽研究系（人間学、政治・国際関係、経済と環境、科学）三十三人▽生活系（高齢者福祉、居住福祉、みどり学）三十二人の計百十三人（女性六十四人、男性四十九人）。

入学式でまず、大熊辰熊・当事業団副理事長が「激変の時代と人生八十年に対応し、全国的に生涯学習への意欲が高まっている。勉学の意欲に燃えた皆さんに心から敬意を表す」と、主催者を代表しあいさつ。東昭・市教育委員は「アカデミーには、すでに四百人の先輩・仲間がおり、気楽に仲良く楽しい学園生活を過ごしてほしい」とお祝いのことばを述べた。

つづいて、新会員代表のことばがあった。歌橋憲三さん（研究系・科学コース）は「一昨年、長い仕事を終え、さて、何をしようかと考えた。会社人間だったので川崎のことを知らないの、川崎学で地域のことばも学びたい」。川口初江さん（表現系・ことばと映像コース）は「高校時代にアナウンサーを目指した。これからの人生で夢を实らせたい」と、アカデミーに楽しみと期待を寄せている。野村加代子さん（生活系・高齢者福祉コース）は「主人の両親の面倒をみた経験から、お年寄りの心のケアの手助けができれば、と思っている」とそれぞれ抱負を話した。

記念講話は篠原一・学長代行の「かわさき市民アカデミーのめざすもの」。学長代行は「地域の学習機関は先細りするものだが、アカデミーは安定して会員が入り、今回聴講生を含め九百人を超える」と川崎市民の学習意欲の高さを評価。そして、同アカデミーが、第一にゼミ（演習）中心の学校で、他に例をみない体系的学習機関。第二、小さな単位の学習で、人と人との結び付きを強め、カルチャーセンターにはない地域活動を展望した学校——と、アカデミーが「地域住民の目が輝く“これからの豊かな社会”へ貢献する」学習機関であることを強調した。

## 市民の目が輝く地域社会を

心温まる地域社会の構築と、豊かな人間の営みを築くための学習・研究機関「かわさき市民アカデミー」第6回生入学式が四月五日、中原区の市中小企業・婦人会館大ホールであった。入会生は百十三人で生涯学習関係者ら二百人が見守る中、新会員代表は「人生八十年時代、夢を実現したい」と、アカデミーへの期待を生き生きと話した。また、篠原一・学長代行が記念講話をした。

# いまを話す

多摩高合唱部の指導者

ゲスト

岩本 達明 さん

Vol. 54



## 地域に音楽の楽しさを 「生徒と横並びでいたい」

わらべ歌 ポピュラー クラシック

わらべ歌やポピュラー、クラシックの楽しさを地域に伝える県立多摩高校合唱部。その指導者が岩本達明教諭(35)。指揮棒を振りピアノを弾く。生徒とともに歌い、踊り、跳ねる。聴衆を魅了する。だが、おあらかじめ「音楽は遊び。生徒に私が遊んでもらっている」と。一昨年、県合唱作曲コンクールで、岩本さんの作品が入賞。昨年は同合唱部の「開かれた声」が全日本合唱コンクール全国大会で銅賞に。音楽の洞察力、指導力とも折り紙付き。「管理では、生徒は心も体も閉ざす。横並び教師でいたい」「人となにかをするとき、苦しみが伴う」。日本社会全体にこの当たり前の視点が欠けていないか。インタビューは、麻生区白山に住む丸山博子さん。

「きょうの三田小での多摩高合唱部コンサート(三田小PTA主催)を鑑賞して、涙が出ました。生徒の顔の輝きが、声とともに胸に響いて感動しました。」  
岩本さん ありがとうございます。

「全日本合唱コンクールで、数々の賞を取られています。特別な指導をされているのですか。」  
岩本さん そこにいる子供たちと楽しく音楽をしているだけです。音楽をすること自体が遊びと思うんですね。生徒に私が遊んでもら

っている感じがします。

「指揮をしているときも本当に楽しそうで、手遊び(リズム打ち)のときは堂々としていて。」  
岩本さん あれは恥ずかしいんですよ。ステージに出たら舞台人になったつもりでやっているんです(笑い)。

「演奏会のなかで、紙芝居や踊りもありましたがあの演出は?」  
岩本さん 生徒が議論して考えたのです。お客さんと一体になりたい、と客席の中でも歌いますが、会場全体を音楽空間にするシアター・ピースという構成です。

「生徒が伸び伸びとしていて。」  
岩本さん 生徒は変わっていきまますね。いろいろな演出を考えるうちに「あつ、それ楽しそうだな」と、自分で気付いてくるんです。だから、三年生になると堂々と演じていますね(うなずきながら)。

「先生と生徒というより、友達のような雰囲気ですね。生徒から何と呼ばれているのですか。」  
岩本さん 「ヤンバさん」です。私の最初の授業はリズム打ちで始まりますが、それが「タンタタ」ではなく「ヤンババ」なんです。世界の音楽界はヤンババです。

「ヤンババ」なんです。世界の音楽界はヤンババです。

# 「面白いな音楽空間」

生徒自身が  
気付け授業

## 合唱は人間成長の場 心開くと声も

例えば、四分音符を四つタンタンタンタンとたたかせるんです。生徒は「何だ簡単だ」と言いますが「違うよ、それ。みんなは四分音符のその音をたいたでしよう。それはアジア的です。西洋の感覚



は音と音の間に空間がある。それを感じながらたいてみよう。いいねえ。間の違いがあるでしょ。こうして、面白いことがいっぱいあることに気付いてもらいます。

—— 思わず引き込まれそうです。

岩本さん インドネシアのケチャをみんなで歌ったり、世界の音楽を調べて新聞に作ったり、社会構造と音楽について学び探求しま

す。その中で音楽とは何か、人間はなんで音楽をするのかを考えられる授業を目指しています。

—— ただ歌うとか音楽を聴くのではなく、生徒の能力を引き出す授業ですね。

岩本さん 子供はみんな、素晴らしい音楽を内在していると思うんです。いまは、それが表出さなくても、なにかがヒントになって、あるいは、だれかのひと言がきっかけで花開くのだと思います。私は、そういう子供たちのそばに寄り添ってほしいのです。彼らが音楽ができるようになるのを見守り、できたら「よかったね」と言える横並びの教師でいたいのです。

—— 横並びの教師。実感のこもったいい言葉ですね。

岩本さん こういうふうにしなさいとか、ただ教えるのではなく、彼らが気付くのを一緒に見守り、一緒に喜ぶ。そういう普通のことのできたらと……。

—— 高校生は、いろいろな悩みを抱えていると思います。

岩本さん 一緒に音楽をしていくと分かりますね。心を開いてくれる、そういう子供たちのそばにいられること自体がうれしいですね（明るい笑顔で）。

—— だから、生徒の声が開かれているのです。

岩本さん 心と体が本当に開いてくれれば、と思います。管理では、心と体は閉まっていきます。

—— 受験教科の先生は、そもそも言つてられないのでは……。

岩本さん 厳しいですが、その中でも頑張っている先生の話を聞くと、本当に生きる力をつける授業をしたと思います。例えば、



客席を離れステージ横で聴くちびっ子

### 岩本 達明 さん

いわもと・たつあき=1961年、川崎区生まれ。国立音楽大教育音楽科第Ⅱ類（リトミック科）卒。85年、県立麻生高教諭となり合唱部創設。89年、同合唱部が全日本合唱コン県大会大賞。90年、ポーランドの合唱団の川崎招聘実行委員長。その尽力と合唱指揮の実力が評価され、ポーランド、ドイツに招待される。91年、多摩高に転勤し合唱団を指導。95年、県合唱曲作曲コンクールで入賞。96年、同校合唱部が全日本合唱コン全国大会で銅賞。麻生区在住。

北の海で鯨を捕る民族にとって、音楽は生きるための道具なんです。共同で鯨を捕るので、普段から歌い合わせの練習をしているのです。生きるための知識が語られるような学校になればいいと感じています。

—— そうですね。でも、現実の学校教育は音楽や美術よりも受験科目が重視されていますが。

岩本さん 文部省が、音楽の授業を減らすという話もあり、厳しい状況です。本来、音楽というのは、成長の場として、とてもすてきなチャンスと思うんです。音楽

全日本合唱コンクール全国大会

## 入賞…生徒の自主的努力と工夫

県合唱曲作曲コンクール入賞のわらべ歌

## 意外！ヒントはハンガリーの合唱



の仲間の中で、他人の悩みに気付いたり、先輩がどう乗り越えてきたかを学び、自分自身どう生きていくか気付いていく場なのです。そういう意味で受験一辺倒でなく、音楽のような教科が重視される時代が来てほしいと思います。

— 岩本さん自身は、なぜ音楽

の教員になろうと思ったのですか。岩本さん 小・中学校で音楽の大好きな先生から、合唱の楽しさを学んだことです。中学のとき、初めて合唱コンクールを開催する準備を、先生と一緒にしました。また、高校では混声コーラス部を創設しました。その経験の中で高

校の教員になろうと思いました。音楽でなくても、先生になり合唱をしたいという気持ちは、小中学生のころから持っていました。

— なぜ、合唱になったのですか。

岩本さん 人と一緒にやれるからです。合唱は体そのものが楽器ですからね。人が集まればどこでもできるので、すてきだなと思ったんです。

— 合唱は、相手の声を聴いてハーモニーをつくります。多摩高の合唱を聴いて、いい人間関係ができていると感じました。

岩本さん いま、人間関係が希薄になっている世の中ですが、合唱をする人も、高校の合唱部も少なくなっています（残念そうに）。人と声を合わせるには、心も合わせなければ本当のハーモニーになりません。そこには、人と何かをする苦しみが伴いますし、葛藤も生まれます。でも、それが生徒を、自分を育てるのだと思うんです。私自身もそれで成長しました。高校時代にそんな体験をすれば、すてきな大人になってくれると思っています。

— 十分、すてきな若者でした

よ。

岩本さん 彼らは、裏で相当な練習を積んでいます。ポピュラーソングなどは、ずり上げたり、ゆっくり入ろうとか、言葉を短めにしたり、細かい作業をきちんとやってはじめて思うような表現ができるんです。

— 輝きの裏には、隠れた努力があるんですね。

岩本さん 私は、最初の授業で「美しい」という言葉をみんなに贈るんです。羊の下に大きいと書いて「美」ですね。遊牧民は、すぐく羊を大事にしていますが、祭りや悲しいことがあると、殺して大地に捧げます。美には犠牲という意味もあるのではないのでしょうか。犠牲が大きいほど美しいものができる、いろいろな陰での取り組みがあつて時代がつけられる、と思うのです。高校という若いときに、自分の好きなことに取り組んでほしいのです。受験がありませんが、やってほしいですね。

— 岩本さんもそのような時代を経て、さまざまな活動をされています。作曲もその一つで、県のコンクールで入賞した「新しい二つのわらべうた」は、とても楽し

## ほんねインタビュー

くほのぼのとした歌ですね。谷川俊太郎さんの「これは のみのびこの」という詩は曲と言葉がぴったりでした。

岩本さん あれは、ハンガリーのカンテムス合唱団と仲良くなった生まれの曲なんです。わらべ歌



は最近うけません、あの歌は小さい子には絶対うけますよ。子供の反応はすごく面白くて、ぜひ地域の合唱団に歌ってほしいですね。

——今日のコンサートでも感じましたが、多摩高校合唱部は日本語をとて大事にしていますね。

岩本さん メッセージのある作品は、言葉が伝わらないと何の反応もありませんので、言葉を重視しています。「あ」という母音は、「雨」と「朝」では、明るさ、スピードが違うのです。いかに日本語をきれいに伝えられるか、気を遣っています。それに、西洋音楽

に日本語をのせる場合、相当な努力と研究が必要です。みんなで歌えばいい、きちつと歌えばいいという段階ではなく、日本の合唱界はその先に入っていかなければいけないと思います。

——ジャンルも幅広いですね。

岩本さん 世界は広いですからね。日本の音楽教育は西洋一辺倒、技術偏重の面があります。そうではない世界の音楽がいろいろあり、もしかすると「なぜ人は音楽をするのか」という答えが、民族音楽の中に隠されているような気がします。ですから、アンテナを張りめぐらし、新たな世界を知り、いろいろな音楽をやりたいと思っています。

——岩本さんご自身は何で音楽をするのですか。

岩本さん そこに他者がいるからですね。それは人であり、ものであり、生き物です。そのかわりの中で、人は日々の営みを続けています。私が追求する音楽は、それが凝縮されたものです。

## 呼吸するよびに音楽を

——本来、音楽は人間の当たり前の自然な欲求ですが、日本人は「学」として考え、音楽の根本を見失っている感じもしますが。

岩本さん 実は最後の授業で、

「自然」という言葉を語るんです。

「しぜん」は「じねん」とも読み

ますが「じねん」の意味は「ネイ

チャー(自然)」「自由自在」、

そしてもう一つは「ふと  
てんてん」。

「これがいいんです。ふと

図らずも、あなたがここにいて、

私もいる。みなさんこうして出

会えたのも音楽があつたからです。

それが自然の思想なんです。私は

その自然でいたい。私が音楽をや

っている。遊んでくれた。生徒

たちに伝わり、その仲間が次の世

代につなげてくれるのです。この



丸山博子さん

——本来、音楽は人間の当たり前の自然な欲求ですが、日本人は「学」として考え、音楽の根本を見失っている感じもしますが。

岩本さん 実は最後の授業で、

「自然」という言葉を語るんです。

「しぜん」は「じねん」とも読み

ますが「じねん」の意味は「ネイ

チャー(自然)」「自由自在」、

そしてもう一つは「ふと  
てんてん」。

「これがいいんです。ふと

図らずも、あなたがここにいて、

私もいる。みなさんこうして出

会えたのも音楽があつたからです。

それが自然の思想なんです。私は

その自然でいたい。私が音楽をや

っている。遊んでくれた。生徒

たちに伝わり、その仲間が次の世

代につなげてくれるのです。この

環境がつけられれば、と思ってい

ます。うちの学校も、休み時間

になると音楽室はもちろん、あちこ

ちから歌声が聞こえてきます。生

徒が卒業しても、どんな形でもい

いから音楽を続けてほしいですね。

それが文化の創造につながり、生

涯学習でもあると思います。

——岩本さん 呼吸をするかのように音楽をしたい。ハンガリーのカンテムス合唱団は、朝起きたらすぐ歌い、食事が終わるとすぐ歌う。移動の途中も、リハーサルが終わっても、本番が終わっても、夜寝る前も歌うんです(笑い)。ごく自然に歌っているんですね。小学校の児童も休み時間の遊びが歌で、みんなが階段で合唱しています。

——岩本さん 日本では考えられませんが、夢のような世界です。でも、そんな環境がつけられれば、と思っ

題字は高橋清・川崎市長

構成／野々川千恵子

文責／田中 園

はりきってます グループ紹介

仲間と楽しむ 学び 活動する 仲間をわらわす。



# 講師と会員推薦の 二本立ての優秀作

のテーマ「陽だまり」の写真二点を持ち寄った。暖かな日差しを浴びた風景やクローズアップされた花のカラー写真、光と影が微妙に織りなすモノクロ写真などが机一面に並べられた。どの作品も、これまで習得した撮影技術と感性に磨かれている。

一枚一枚の作品を真剣に見入る会員。「あの風景、光と陰影がいきているね」「フィルムの感度は？絞りはいくつ？」と会員相互の批評、感想、質問が続く。

写真家で講師の島崎やすしさんは「みなさん上手になって、批評する余地が少なくなりました。花でも虫でも風景でも、まず見て、モチーフと対話をすることが大切。ものを言わなくても、ニュアンスを与えてくれます」とアドバイス。

神田代表の作品について、「それがポイント？両方ねらうと、どっちつかずになる。これは欲張り」と批評。手をたたき笑い声が起こる。

この日は、講師と会員推薦の優秀作が二点とも異なつた。「違うところがいいんです。これで救われ、頑張ろうと思える。ほめられる写真を撮ろうと苦労しながら楽しんで

ているので」と神田代表。

和やかな雰囲気、厳しく率直な批評もすんなりと受け止め、新たな撮影意欲をかきたてるようだ。同会は、一年前、高津市民館の成人学校「あなたもカメラマン」の修了者有志で発足。撮影会や地域で発表会も行っている。

講師推薦作の林伯さん(69)は「作品を見た人が素直にどう感じるかが大切。会員同士いいことを言えるのも、この会のいいところです」と話す。

会員「互選」一位の松井義弘さん(65)は「今日はたまたま。定年後の趣味にと始めたら面白くなつて。身の回りが被写体と思い、毎日カメラを持って歩き、気軽に撮っています。一生続けたいですね」と熱っぽく話す。

入会二年目の鈴木セイ子さん(51)は「庭の花を接写したらすときに写り、それ以来、花に魅せられています。やればやるほど難しいですが、気取らず、小さな疑問も教えていただいています」。

同代表宅は高津区入本一の七の二〇。☎(8665)7706。

文／小誌・野々川千恵子  
カメラ／小誌・山本 綾子

批評しめい感性・技術磨く

高津フォトサークル

カメラ同好会は数多くある。高津フォトサークル(神田敏夫代表ら十四人)は、ちよびりユニーク。毎月一回、高津市民館で開く例会では、会員が優れた作品を選ぶと同時に、講師推薦の優秀作も選ぶ「二本立て選考」なのだ。この日の例会に、各会員は三月

はりきってます グループ紹介

ダンス楽しみ健康で美しく

ソシアルサークル(宮前区)

タンゴ、ワルツ、ブルース、ジルバ、サンバの曲に乗って社交ダンスを楽しむ「ソシアルサークル」

かき、リズムに合わせて全身を動かした心地よさからか、疲労の色はなく、逆に体内で眠っていたエネルギーが目を覚ましたように元氣。

休憩後は、チャチャチャのレッスン。「ワンツースリーチャチャヤ」。少しずつレッスンをしては、前田さんが「今までで分からない人いますか」と会員を見渡す。「分からないよ」「スリーで右足を出すのですか」と汗をぬぐいながら、ちよつぱり不安顔の会員も。「ワンとスリーに力を入れて」「そこで左足に体重をかけて」と会員同士の

レッスンも、「焦らない。一回で覚えようとしなくて」と前田さんの言葉に笑顔が戻る。レッスンを繰り返すうち、体が音楽とステップを覚えるという。

同サークルは約十年前に発足。美容師の千葉代表が「生涯健康の維持にソシアルダンスを」と呼び掛けた。

島根十四治さん(72) 敏子さん(66) 夫妻は「年だから出来ないではなく、前向きに挑戦して、いつまでも元気でいたい」と笑顔。

新関末吉さん(66) は「リードするのが難しいが、パートナーとタイミングがぴったり合った時は最高です」とにっこり。

坂井伸子さん(54) は「健康のためだけにしないで、競技会に出てみたいわ」と意欲を燃やす。

坂本安吉さん(62) は「最初は女性の手を取るのが恥ずかしかったが、いまでは楽しい」と笑う。

千葉代表は「ダンスは健康によく生涯学習にぴったり。楽しい雰囲気を感じたいですね」と話す。

連絡は宮前区有馬五の一の一八。

☎(854) 5858の同代表。

「……」と男性がささやくように初心者の女性をリード。背筋を伸ばし、しなやかに足腰が「演技」するペア。楽しさと真剣さがミックスされたムードがいい。

「ターン、キック、ポーズ。そうそう」そこで、ちよつとカッコつけてみましょう。アドバイスをするのは県社交ダンス教師協会所属の前田史恵さん。息の合ったペアには「OK」と励ましの声。

五、六曲踊り終わると、どの顔も紅潮し首筋から汗が流れる。し

ステップ繰り返し  
心地よい汗と笑顔



文 / 小誌・山本 綾子  
カメラ / 小誌・野々川千恵子

仲間と楽しむ

学び

活動する

生き生きと

講座・講演

①POP広告講座②宅地建物取引主任者資格受験準備講座◆市立労働会館

①は5月16日～7月4日

(10日を除く)の毎週火・

金曜18時5分～14回

見やすく、読みやすい文字

の書き方、レイアウトを学

ぶ。講師は笠原正久さん。

受講料1万2千円、教材費

は別。定員25人(抽選)②

は5月16日～9月19日の火

・金曜13時半から、全30回

受講料3万円。定員35人

(抽選)申し込みは、受講

料を添え5月11日(日)⑩時

⑪時に同館。問い合わせ

は☎(222) 4416の

同館。

「春期市民講座◆桜美林

大学」5月15日～7月3日

の毎週木曜10時半、12時50

分から、全16回。テーマは、

国際社会問題▽現代的課題

▽思想▽教養全般。受講料

は全回通し6千円、1回千

円。定員先着150人。申

し込みは☎0427(97)

2661内線276の同大

学生涯学習センター。JR

淵野辺駅からバス。

「こども体験教室①わら

細工②竹細工◆日本民家園

①は5月24日(土)②は6月28

日(日)。いずれも10時から。

対象は小中高生。無料。定

員は先着各10人。申し込み

は①5月1日(木)から②6月

1日(日)から☎(922) 2

181の同園。

「川崎労働学校◆市中小

企業・婦人会館」5月26日

～6月30日のうちの月・木

・金曜18時半から、全12回

労働時間制度▽女性の雇用

・労働のあり方▽リストラ

・雇用調整をめぐる法律問

題について。講師は榎井常

喜・早稲田大教授、中島通

子・弁護士ほか。受講料2

千円。定員先着百人。申し

込みは5月12日(月)から☎

(222) 4416の市立

労働会館(主催)。

「ことばの寺小屋◆登戸

ドレスメーカー学院」5月

13日(火)10時から。結婚式な

どの司会・スピーチ法、朗

読の基本について指導。写

真。講師は澤田啓子さん。

受講料千円。定員先着15人

申し込みは午前中に☎(9

11) 2221の同院。向

ヶ丘遊園駅下車。

②は5月29日～6月19日の

毎週木曜13時半から、全4

回。教材費2千円。いずれ

も対象は成人。受講料2千

円。定員30人。申し込みは

5月15日(木)までに往復はが

きに教室名、住所、氏名、

電話番号を記し〒214多

摩区三田2の3303の1、

同センター。☎(911)

1510。

「春の創作教室①陶芸②

七宝焼③こども工作◆市青

少年創作センター」いずれ

も6月14、28日の土曜▽15、

22日の日曜①9時半から②

③13時半から、全4回。対

象は小中学生。教材費は①

千円②2千円③千500円。

定員は各30人。申し込みは

5月15日(木)までに往復はが

きに教室名、住所、氏名、

電話番号を記し〒214多

摩区三田2の3303の1、

同センター。☎(911)

1510。

「春の創作教室①陶芸②

七宝焼③こども工作◆市青

少年創作センター」いずれ

も6月14、28日の土曜▽15、

22日の日曜①9時半から②

③13時半から、全4回。対

象は小中学生。教材費は①

千円②2千円③千500円。

定員は各30人。申し込みは

5月15日(木)までに往復はが

きに教室名、住所、氏名、

電話番号、学校名、学年を

記し〒214多摩区三田2

の3303の1、同センタ

ー。☎(911) 1510。

「講習会①病害虫の防ぎ

方②ハーブの楽しみ方◆市

緑化センター」①は5月28

日(水)。無料②は6月11日(水)

教材費千円。いずれも13時

半から。定員30人(抽選)。

申し込みは①5月19日(月)②

31日(土)までに往復はがき

(1人1枚)に講習会名、

住所、氏名、電話番号を記

し〒214多摩区宿河原6

の14の1、同センター。☎

(911) 2177。

「建築と日本文化」連続

講演会◆日本民家園」6月

15日(日)、台所・流しの歴史

講師は大河直躬・千葉大名

誉教授▽22日(日)、日本建築

の内部空間▽障壁画と建築

講師は西和夫・神奈川大教

授。いずれも13時半から。

受講料は各千円。定員各40

人(抽選)。申し込みは「台

所・…」は6月3日(火)、「日

本建築…」は10日(水)までに

往復はがきに講演会名、住

所、氏名、電話番号を記し

〒214多摩区枳形7の1

の1、同園。☎(922)

2181。

「竹細工」たて型四つ

目花籠」作り②わら細工

2181。



「春の創作教室①絵手紙センター」①は5月30日、6月20日の毎週金曜10時から、全4回。教材費は実費

「講習会①病害虫の防ぎ方②ハーブの楽しみ方◆市緑化センター」①は5月28日(水)。無料②は6月11日(水)教材費千円。いずれも13時半から。定員30人(抽選)。

「竹細工」たて型四つ目花籠」作り②わら細工2181。

学習・文化情報

参加したい催しがある

「ぞうり」作り◆日本民家園①は6月8日、22日の日曜。受講料は各千円②は6月15日、29日の日曜。受講料は各7百円。いずれも10時から。定員各30人(抽選)。申し込みは①5月30日(金)②6月6日(金)までに住復はがきに住所、氏名、電話番号、講座名、受講日を記し〒214多摩区枳形7の1の1、同園。☎(922)2181。

「中村正義展」関連企画講座◆市民ミュージアム①5月11日(日)「美術家としての中村正義」と題し、栗津潔・アートディレクターが講演▽17日(土)「戦後の日本画と中村正義」と題し、針生一郎・和光大名誉教授が講演。いずれも14時から。無料。定員は各270人。申込不要。問い合わせは☎(754)4500の同館。

「ニューカッブルセミナー」◆麻生市民館①5月31日～6月28日の毎週土曜10時から、全5回。子育て、家族の今後について学ぶ。対象は初めて親になる男女。無料、教材費は別。定員先

着20組。申し込みは5月17日(土)10時から☎(951)1300の同館。

①ガーデニング入門②子どもと遊ぶ③油彩画講座④樹木(風景)と裸婦を描く④表現工房フォト・スナップ写真の基礎⑤春の生き物ウォッチング◆玉川大学①は5月7、14日の水曜▽6、7月の第2・4水曜13時から、全6回。コンテナ作り、寄せ植えなどの実践から基礎知識、技術を学ぶ。講師は松井孝・同大学女子短大教授。材料費込み3万3千円。定員25人②は5月10、24、31日の土曜10時半から、全3回。子供と関わり方がうまく出来ない父親のための講座。対象は3、4歳児と父親。受講料9千円。定員は15組30人③は5月10日～7月19日の毎週土曜14時から、全11回。レベルに応じた個別指導。講師は広畑正剛・日本美術家連盟会員。受講料はモデル代込み7万円。定員15人④は5月24日(土)と6、7月の第2・4土曜13時から、全5回。講師は船水俊彦・フリ

ーカメラマン。対象は初心者。受講料2万円。定員20人。カメラ、フィルム持参⑤は5～7月の毎月第1金曜9時から、全3回。同学院内で花、鳥などの自然観察。講師は石川昌生・同大学女子短大助教授ら。受講料1万円。定員30人。双眼鏡持参。申し込みは☎0427(39)8895の同大学継続学習センター。玉川学園前駅下車。

「文化講演会」定年からが面白い◆麻生老人福祉センター①6月7日(土)13時から。講師は小林淳宏・元時事通信海外特派員。無料。定員先着200人。どなたでも参加できます。申し込みは5月15日(木)から☎(966)1549の同センター。



①わくわく実験教室②コピー機のひみつ③やさしい先端技術講座④DVD⑤サイエンスショー⑥君も超能力者◆東芝科学館①は5月10日(土)10時と13時から。何気なく使っているコピー機の仕組みを実験を交え説明。対象は小学生以上②は5月16日(金)10時と13時半から。マルチメディアの最先端について、実際の映像や迫力ある音響を体験しながら解説③は5月24日(土)14時半から。不思議な現象を見ながら解説。いずれも無料。①②は定員各250人。申し込みは①②☎(549)2200の同館③不要。川崎駅からバス。

「歌と笑いで学ぶ人権の集い」◆市労働会館①5月15日(土)13時から。「みんな人間みんな友達」横浜国際人権センターの目指すもの」のフィルム上映▽シンガーソングライターの間島秀樹さんの歌と講演▽露の新治さんののはなし。無料。申し込みは5月12日(月)までに☎(200)2316の市市民局人権・共生推進担当。同人権センターなど主催。

「わくわく・マイム・シアター」◆県立青少年センター①5月5日(祝)14時開演。リスミカルでドラマチックなショートストーリー、パントマイムで動物や食べ物

早瀬一洋テノールリサイタル

5月24日(土)午後2時開演 神奈川県民ホール小ホール  
全自由席 3,000円 (関内駅から徒歩15分、山下公園前)

ソプラノ 中谷麻利江 <曲目> ドニゼッティ オペラ「愛の妙薬」より  
ピアノ 中島 慶子 “そよ風に聞いてごらんなさい”(二重唱)  
“人知れぬ涙” ほか

問い合わせ ☎044(434)4771 早瀬

学習・文化情報

魅力的な催しがある

を当てるゲーム。出演は山本さくら。全席自由。大人500円、高校生以下無料。定員先着700人。申し込みは往復はがきに公演名、住所、氏名、電話番号、希望人数(子供・大人の数)を記し〒220横浜市西区紅葉が丘9の1、同センター・舞台芸術部企画課。問い合わせは☎045(24)3131内線3411。会場は桜木町駅下車。

「赤いふうせんまつり・バザー◆新城児童公園」5月18日(日)10時から。雑貨▽日用品▽乾物▽し好み▽電気製品▽古着を格安で。雨天は25日(日)。不用品の提供も受け付け。赤いふうせん☎(935)2678は障害者の地域作業所。同公園は武蔵新城駅下車。

「サツキ展◆市緑化センター」5月21日(水)〜6月8日(日)9時半から。百品種を開花に応じ展示。月曜休園。問い合わせは☎(911)2177の同センター。

①炉端で語る昔話②お茶席の会③建物とくらしく学芸職員のトーク集◆日本

「民家園」①は5月4日(日)11時〜14時から。秋田地方の民話を鎌田俊三さんが語る②は5月3日(日)10時から③は6月6日(日)13時半から「ドクター野呂瀨の解体新書」と題し、古民家の解体・移築余話を野呂瀨正男・学芸員が話す。①③無料②は一服300円。入園料は必要。①②は佐々木家へ③工藤家へ直接。問い合わせは☎(922)2181の同園。

「中村正義展関連企画」映画上映◆市市民ミュージアム」5月10日(土)13時半から「水俣 患者さんとその世界」。土本典昭・演出。一般500円、小中学生300円。定員は当日先着270人。問い合わせは☎(754)4500の同館。

「麻生少年仲間づくり(冒険クラブ)参加者募集(麻生市民館)キャンプ・ハイキングなど野外活動をして元気な仲間の集まりをつくる。活動は月1回で1年間。対象は小学4年〜中学生。保険料400円、交通費など実費。定員60人(抽

選)。申し込みは5月11日(日)10時に同館へ。問い合わせは☎(951)1300の同館。

「①私にもできるマスコット②Let'sお菓子作り◆県立川崎青少年会館」①は5月14日〜12月10日の毎週水曜15時から。対象は小学生。無料。定員10人②は5月25日(日)13時から。オープンを使わない簡単なお菓子作り。対象は小学生以上。材料費実費。定員は小学生10人、高校生以上10人。申し込みは☎(222)5282の同館。

「①星を見る夕べ②天体写真撮影会③親と子で実験教室◆市青少年科学館」①は5月10日(土)17時(日)19時から月、火星、星団を観望。雨、曇りはプラネタリウムで星の話②6月29日(日)19時半から、火星を撮影。定員先着14人。一眼レフカメラボディ、フィルム、レリーズ持参③6月1日〜来年2月1日の毎月第1日曜10時から、全8回。身近な材料を使っての科学実験。教材費は年間1組3千円。定員

先着20組。いずれも参加費は無料。申し込みは①当日②5月25日(日)9時から☎(922)4731の同館③5月21日(水)までに往復はがきに教室名、住所、氏名、電話番号を記し〒214多摩区杉形7の1の2、同館。

「①ミニ観察会②自然観察会◆生田緑地」①植物観察会、5月3日(日)13時20分、市青少年科学館に集合▽昆虫観察は11日(日)9時50分、同科学館に集合②は6月7日(土)10時から雑木林探検。雨天中止。いずれも無料で、筆記具、図鑑、ルーペ、双眼鏡持参。②は弁当、雨具も。申し込みは①不要②は定員先着30人で5月16日(金)9時から☎(922)4731の同館。

「将棋大会◆川崎市民プラザ」6月1日(日)9時受け付け。棋力別に分かれ総平手個人戦。プロ棋士の指導対局あり。参加費は大人千円、中学生以下は500円。定員200人(抽選)。棋力はAは3段以上▽Bは初段▽2段▽Cは1〜3級▽Dは4級以下。申し込みは5月

宅地建物取引主任者答案練習講座 受講生募集

- 開催日時 7月12日〜10月11日の土曜14〜16時半、全10回
- 会場 川崎市生涯学習振興事業団研修室(新百合ヶ丘駅から徒歩2分)
- 定員 50人(定員を超えた場合は抽選)
- 受講料/教材費 15,000円/17,500円(東京法科学院テキスト使用)
- 申し込み方法 5月13日(火)〜15日(木)10〜17時に☎(952)5000の当事業団へ電話で申し込む

学習・文化情報

心やすらぐ音楽がある

22日(木)までに往復はがきに住所、氏名、年齢、棋力、電話番号、希望クラスを記し〒213高津区新作1の19の1、同ブラザ「同大会」係。☎(888)3131。

◆「梅后流江戸芸カッポレ」  
◆サンライフ川崎 6月4日〜8月27日(30日を除く)の毎週水曜13時から、全12回。講師は江戸芸カッポレ桜川后宝。受講料は月2千5百円、会場費5百円。申し込みは5月末日までに☎(244)6954の中島さん。会場は京急八丁駅下車。后宝会主催。

スポーツ

「こども体操教室◆麻生スポーツセンター」5月24日〜10月25日の毎月第2・4土曜10時から。対象は小学生。受講料6百円。定員50人。申し込みは5月17日(出)15時に同センターへ来館。☎(951)1234。  
「スポーツコーナー利用講習会◆県立川崎青少年会館」5月23日(金)18時半からウエートトレーニングの基

ステージ

本と利用法。対象は16歳以上。無料。保険料千3百円。定員15人。申し込みは☎(222)5282の同館。

「語りLIVE◆ミニホール新宿Fu」5月17日(出)18時開演。藤沢周平「小ぬか雨」、言葉申すまじく候▽18日(出)14時半開演。藤沢周平「父と呼べ」、姉妹ほか。出演は北川智絵、上月麻未、矢澤幸治ほか。会費3千円。問い合わせは☎(711)8032の北川流・語りの会話芸写。会場はJR新宿駅東口から徒歩8分、新宿永谷ビル1階。

「ザルツブルク市民合唱団交流かわさきフェスタ」日本初公演◆洗足学園前田ホール他 5月12日(月)18時半開演。クラシック、クリスマス音楽が中心の演奏。同学園大及び高津・市民合同合唱団が友情出演▽14日(水)18時開演。会場は新百合21ホール。オーストリア民謡、ヨーデルを中心に市民との交流演奏。百合丘手製



楽器アンサンブル、麻生童謡をうたう会、県立多摩高合唱部などが友情出演。いずれも無料。問い合わせは☎(860)1787の同実行委の鈴木さん。前田ホールは溝ノ口駅、新百合21ホールは新百合ヶ丘駅下車。「聖マリアンナ医科大学管弦楽団定期演奏会◆麻生文化センター」5月17日(出)18時開演。チャイコフスキー「交響曲第5番 ホ短調 作品64」「スラヴ行進曲」▽ドヴォルザーク「謝肉祭」序曲」写真。指揮は小林幸人。無料。問い合わせは

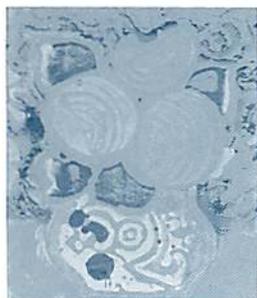
☎(977)8111内線5840の三浦さん。  
「木野雅之ヴァイオリンリサイタル◆キリスト品川教会グロリアアチャベル」5月30日(金)19時開演。フアリヤ(コハンスキ編曲)「バントマイム」▽トウリ1ナ「ヴァイオリンソナタ第2番作品82 スペイン・ソナタ」などスペイン音楽。ピアノはC・アルヴァレス。全自由席4千5百円。問い合わせは☎(855)0111の鷗沼ミュージックセンター・河合さん。会場は品川駅下車。  
「お散歩コンサート◆市立桜本小体育館」5月10日(出)13時半から。童謡、歌謡曲、民謡などおなじみの曲を演奏。無料。地元の子供たちや地域の人も出演。同コンサートは奇数月の第2土曜に開催。問い合わせは☎(233)6361の市教育文化会館事業課内・同コンサート実行委。  
「奥平哲也マリンパサیتال」写真◆「花ホール」5月30日(金)13時半開演。ロッシェニ「ウイリアム・テ

初めてふれるワープロ講座II 受講者募集

- 実施日/時間 — 6月17日(火)〜19日(木)/10時〜16時
- 会場 — 市教育文化会館学習室 (JR川崎駅から徒歩15分、バスあり)
- 対象/定員 — 市内在住・在勤・在学の方/30人 (定員を超えた場合は抽選)
- 受講料/教材費 — 9,000円/1,500円
- 使用機種/ソフト — NEC PC9801DX-U/一太郎
- ★申し込み方法 — 5月23日(金)〜30日(金)の9〜17時に☎(233)6250の川崎市生涯学習振興事業団川崎分室へ電話で申し込む (月曜休み)

学習・文化情報

みたい絵がある



「中村正義の美術館」5月25日(日)まで、中期・模索と多様化の時代。正義の日展脱退から1973年までの同館所蔵作品「顔」「薔薇」―写真―「風景」など

ギャラリー

ル序曲」▽マリ―「金婚式」▽さだまさし「道化師のソネット」他。ピアノは大形友希子。全自由席千800円  
問い合わせは☎(866)6090の同ホール。溝ノ口駅下車。



展特選など数々の賞を受賞の若い作家。☎(945)4416。稲田堤駅下車。  
「ギャラリー幸」5月9日(金)〜14日(水)菅原ヨウコ個展。5番街で会った人、人と町の風景などニューヨークをモチーフにしたアクリル、水彩▽30日(金)〜6月4日(水)弥原公泉メルヘン展。バリのお嬢さんたち、ネコなど水彩、アクリル、バス



40点を展示。一般500円、学生300円、小中生200円。☎(953)4936。読売ランド前駅からバス。  
「催し」に関連記事あり  
「画廊ランブ屋」5月15日(木)〜25日(日)、日・月・抄  
三村伸絵日本画展。「野遊」廻(II)―写真―などの大作から小品まで50点を展示。三村伸絵は、市美

読者の声



テル画を展示。☎(555)8181。川崎駅西口下車。  
「スナック喫茶琴」5月3日(初)〜31日(土)加藤旦子の油絵展。静物、景色10点。問い合わせは☎(544)0507。鹿島田駅下車。  
「市民ミュージアム」6月1日(日)まで、没後20年

大事な地域民主主義だが実践むずかしい  
麻生区金程 大柳玄恭さん  
3月号の「いまを話す」で「アカデミーは骨太な学習機関でなければいけない。学ぶことと行動を一緒にできるような」と述べていますが、その通りだと思えます。地域活動においては、横社会で肩書もいりません。室伏さんのいう地域デモクラシーが一番大事ですが、これが一番むずかしいことです。私は、縦社会を約4年しか経験していませんが、横社会のほうが厳しいことが多いと思います。これからもいろいろな事を学び、



中村正義展。日本画の常識を覆し、風雲児と騒がれた

地域活動に役立たせたいと思います。

川崎の高齢者施策に励まされ頑張る決意  
三重県桑名郡  
三宅昭三郎さん

ステージ・アップ3月号を拜読しました。川崎市が積極的に高齢化社会の施策に努力されているのを見てうれしく思いました。私は年金受給者ですが、今後はボランティアとして環境美化、福祉などに積極的に参加し、住みよい社会を推進したいと考えております。

新しい出会い求め  
S・U誌を応援!

高津区下作延 山田晃さん  
いつの日からか、銀行にあつたステージ・アップを

正義の日展時代から晩年の代表「舞子」「うしろの人」  
―写真―など180点。5月5日(初)25日(日)31日(土)14時から、同館学芸員が解説。観覧料は一般700円、小1大学生300円。☎(754)4500。「催し」講座・講演」に関連記事あり

ミニニュース

店のリサイクル度は?

ごみ連が冊子つくる  
「川崎・こみを考える市民連絡会」(飯田和子代表)はこのほど、川崎市内のスーパーや生協119店の

「ごみ減量・リサイクルチエック 私たちが変わればお店が変わる」と題する冊子をまとめた。

調査は、容器包装(リタ―ナブル瓶、たまごパック、はだか売りなど)▽レジ袋の削減対策▽プラスチック容器入り商品の詰め替え用の販売▽再生紙製品の販売▽ペットボトルなどの店頭回収など9項目を星マークで5段階にランク付けした。その結果は、1つ星24・4%▽2つ星40・3%▽3つ星26・1%▽4つ星9・2%▽5つ星なし―。

同会では「店頭回収は広がっているが、古紙入りティッシュペーパーを扱っている店がほとんど無い。店頭回収や環境に配慮した商品は商品棚に表示すべき。レジ袋の削減は、スタンプで還元する努力でなく、レジ袋が商品代に含まれている事実を直視して有料にし、商品を値引きすべき」としている。冊子には、実名で各店のリサイクルチエック度を表示、市民団体としての姿勢を明確にしている。

冊子希望者は、麻生区上麻生2の5の7、☎(955)2533の同会連絡先の飯田代表宅へ。1部300円(送料別)。

地域で生きる小誌情報好評な「お散歩コン」

「川崎区PTA協議会の方々と奇数月の第2土曜の午後、川崎区内で「お散歩コンサート」を開いています。とても好評です」と楽しそうに話すのは、市教育文化会館事業課の片岡富美子・社会教育指導員。同実行委事務局は同事業課内にあり、片岡さんは事務局員。小誌スタッフは「学習・文化情報欄に載せさせていただけます」。片岡さんは「ステージ・アップを毎月読み、情報をもらっています。新春号「グループ紹介」の韓国舞踊の「サークル・パレンセクサルプリの会」に出演していただきたい」と笑顔。小誌情報が地域で生かされていると実感。

### 本場の演奏に陶醉

多摩市民館ホール  
「ザルツブルク・モーツアルテウム・クワルテット

&菅野潤(Piano)演奏会」が3月25日夜、多摩市民館ホールであった。多摩区総合庁舎の完成を記念して開かれた。本場の演奏が身近なホールで聴けるとあって会場は、ほぼ満席。

同クワルテットは3曲の室内楽曲を披露。モーツァルト「ピアノ四重奏曲第1番」短調K・478」では、鍵盤の上を指が流れるようなタッチで弾く菅野さんのピアノとバイオリン、ピオラ、チェロの4人の心が一つになる。モーツァルトが200年以上も前に作曲した、遊び心が込められた軽やかな旋律に市民は陶醉。3曲のアンコール後も客席から拍手が鳴りやまなかった。

### 聖マリ東横病院の

#### 小誌の配布は好調

3月から小誌の新たな配布場所となった聖マリアンナ東横病院待合室(武蔵小杉駅近く)には、2百冊を配送しているが「2、3週間で、完配こと、熱心な読者からうれしい通報。同病院の配慮に感謝。

## 編集後記

ちよつぱり肌寒い3月下旬、小田急線新百合ヶ丘駅から白山まで、のんびりと歩いてみた▼閑

静な住宅街のところどころは空き地のまま▼枯れ草の隙間から小さな草花が顔を出し、そのそばで土筆ん坊がスツクとかわいらしく立っていて、懐かしさを覚えた▼昔、歌人は土筆を「つくづくし」といい、それをうたに入れ、早春の訪れを詠んだ▼緑とか山、川、それに音楽、絵などは生活の一部、否、生活そのものはずである▼今号「いまを話す」のゲスト、岩本教諭の表情をせひ、見ていただきたい▼あの表情は、生徒とともに生き、生徒と一緒に遊ぶ「音楽は生活そのもの」の顔だ▼市民アカデミー修了式の修了生代表のこゝとばもよかつた▼とくに、後藤一郎さんの話は、長年のネジ設計者が退職になり、アカデミー会員になった動機が、「濡れ落ち葉」になら

ないように」であり、芸術コースを選んだ理由が「優雅な生活を送るため」であった▼飾りも気負いもなく、ユーモアを交え、自然に自分を出していた▼いつまでも、後藤さんの言葉が心に残るのは、生活のにおいがして、退職前後のことも、この日の言葉も自分の頭で考えたからだろう▼ところで、ステージ・アップのスタッフが四月一日から変わった▼校正や要請文書担当の小川忠則さんが異動▼週二日のアルバイトで「いまを話す」グループ紹介」から配送作業までしてくれた野々川千恵子さんが「アカデミー」の「人間学」に入る」などで退職▼「新鮮力」は「書く仕事を一生続けたい」という井上徳子さん▼「いまを話す」のコーディネーター・構成者には、富樫恭子さんが協力スタッフとして加わる▼また、初の公募でもう一人を採用するが、(前号に応募要領)今号が発行されるころには、決まっている▼さらなるご愛読をお願いする(田)。

# 市民アカデミー 第4回修了式

## 「退職後の心の空洞ない」 「夫中心の意識、変わる」



笑顔で証書を



後藤一郎さん



西山千代さん



アカデミーは楽しい。修了生代表のこともユーモアたっぷり。

かわさき市民アカデミー(学長

・高橋清市長)の第四回修了式が

三月二十一日、市中小企業・婦人

会館であり、六十単位を取得した

二十八人(女性二十人、男性八人)

の修了生一人ひとりに、篠原一・

学長代行(東京大学名誉教授)が

修了証書を授与した。修了式には

川崎市、市教委、当事業団など生

涯学習関係者ら約百人が出席した。

篠原学長代行は「生涯学習の修

了式というのは自己矛盾。将棋に

たとえるなら昇段式。今後、二十

八人の方々が、さまざまな活動を

されるであろう」と地域で中心的

役割を担うことを期待。また、同

代行は教育の現状を「問題が多す

ぎる」と憂慮。少子高齢化社会に

ついて「二〇世紀は児童の世紀だ

ったが、二一世紀は子供の危機的

世紀。子供の教育は大事だが、そ

の意味からも熟年が頑張り良い社

会にしたい」と指摘。「多くの熟

年がアカデミーのような楽しさを見

出し出せる学習をして、二一世紀

は熟年の世紀に」と述べた。

この後、会員OB代表や会員の

会代表がお祝いのごちを贈った。

修了生代表のごちは、九四年

度「人間学」の西山千代さんと九

五年度「芸術」の後藤一郎さん。

西山さんは「ここに来る途中、

桜のつほみを眺め、春を感じたが、

三年前は夫が単身赴任になり桜を

見るゆとりはなかつた。夢中にな

れることをと「人間学 男と女の

講座」に入り講義が刺激的。その

後、講師と食事をして若い感性に

触れた。演習は、夫中心の生活の

私の意識を変えた」と話した。

後藤さんは、バネの設計の仕事

を五十年やって退職間近に「地域

に密着しないと人生、空白になる

と思い、歌舞伎でも学んで優雅な

生活を送ろう」と考えた。最初の

講義で「音楽は神の声。神を呼ぶ

には聖地がある」との講師の話だ

ったが、「回を重ねるにしがたい、

面白さを増した。アカデミーにき

て、心配していた退職後の心の空

洞は完全に埋まった」と、生き生

きとした表情で学園生活を振り返

えた(田)。

●発行

(財)川崎市生涯学習振興事業団 〒215 川崎市麻生区万福寺一の二の二、新百合21ビル  
電話 044(952)5000代 FAX 044(952)1350 編集人・田中 園